

2014年度に環境プログラムが開講する「FLP演習A（2年次）」の 担当予定者とその講義概要

2014年度に開講する「FLP演習A」の担当予定者とその講義概要は、「プログラム」を選択する際、参考にしていただくために作成しました。そのため、現時点の「FLP演習A」の担当予定者であり、エントリーシートの提出後、演習担当予定者の変更があり得ることをお含みおきください。

*（担当：牛嶋 仁・法学部） 多摩キャンパス開講

テーマ：国境を越える環境法と国際協力・地域の諸問題

演習概要：

本演習は、国際協力、地域・公共各プログラムと合併して行います（ゼミに各プログラム所属学生がいるしくみ）。環境問題や国境を越える環境法を結節点として、国際協力、地域公共の視点も併せ持つ多様性のあるゼミにしたいと考えています。

近年、多国間条約による環境規制の増加やトランスナショナル環境規制（グローバルゼーションにより特定国の環境規制が国境を越えて法的または事実上の影響を及ぼすこと）により、私たちの市民生活や企業活動が影響を受けるようになりました。自由貿易協定や経済連携協定によっても各国・地域の環境保全に影響が生じる可能性があります。それら現象について国際協力・地域の視点から実地調査を含む検討を行います。

対象テーマは、上記に関連するものについて、担当教員と相談した上で、受講者が決定します。授業は、受講者の報告と討論により行います。

方法として、受講者による文献調査報告と実態調査の二つの柱があります（いずれも報告集作成）。

報告について、演習Aでは、基礎力をつけるため、広く環境問題を対象とします。演習Bでは、受講者が決定した全体テーマの検討を行います。全体テーマの例として、政府開発援助における環境アセスメント、電気製品に含まれる有害物質規制、生物多様性条約名古屋議定書によるABS（遺伝資源へのアクセスと利益配分）、自由貿易協定、経済連携協定が地域の環境に与える影響などがあげられます。演習Cでは、受講生ごと（またはグループ）の個別テーマを設定します。

実態調査について、演習Aでは、海外調査（2014年9月〔タイ〕予定。演習B、法学部環境法ゼミと合同。タマサート大学との交流を含む）を行うべく準備を進めています。演習B、Cについても、海外（Asia-Pacific 諸国）での大学交流・調査を考えていますが、詳細は、受講生と相談して決定します。

*（担当：ヘッセ、スティーヴ・法学部） 多摩キャンパス開講

テーマ：

Study of the International Environment:

A look at various problems, policies and issues of the international environment, with a focus on research and discussion in English.

演習概要：

This course will give students a chance to explore issues of the international environment, including ecology, economics, technology, policy and law. In addition, students will develop their skills of researching, discussing, and presenting environmental issues in English.

Classes will center on discussion among students with guidance from the teacher, and students will select topics for independent research and class presentations.

*** (担当：田中 廣滋・経済学部) 多摩キャンパス開講**

テーマ：環境とグローバル市場経済

演習概要：

本年度はグローバル社会における環境問題の要因と対応策を市場機能という視点から分析するための基礎知識の獲得を目標とする。また、環境技術のイノベーションの内容とグローバル社会のなかで情報発信の基礎を学習の課題とする。また、米国のセントオラフ大学とのインターネットを活用したアジアの環境に関する共同授業にも参加して、地球環境への取組と日本における環境対策の取組との比較分析を行う。

*** (担当：佐々木 創・経済学部) 多摩キャンパス開講**

テーマ：リユース（再使用）について学際的に研究し、実践しながらリユース促進策を立案する

演習概要：

これまで日本の循環型社会の形成における政策・施策はリサイクル関連法令を中心に実施されてきました。しかし、平成24年4月に閣議決定された第四次環境基本計画において、「リユースに係るビジネスの市場につながるような環境を整備し、ライフスタイルの変革を目指す」ことが初めて言及されており、今後リユース関連施策が立案されることになると考えられます。

リユースの経済活動に着目すると、従来リユースは新規需要の抑制としてマイナスな活動として捉えられてきましたが、近年では新商品を取り扱う小売店が、売上の相乗効果があるとしてリユース商品を取り扱う事例が増えているなど変化しています。

また、リユースの環境負荷削減効果に着目すると、リユースをすることは新規投入資源や最終処分量の削減が見込める一方で、省エネ性能に劣る製品を長期使用することで環境負荷が増加します。

このようなリユースの経済的、環境的側面について学際的に研究を行うだけでなく、実際に施策や事業を実施している環境省、自治体、リユースショップ等へのヒアリング、また自らもリユースの取組を実践する中で、リユースの促進策を検討していきます。

*** (担当：藪田 雅弘・経済学部) 多摩キャンパス開講**

テーマ：持続可能な観光発展の事例研究

演習概要：

- 問題設定と研究テーマの設定をめざして、環境白書や観光白書、その他必要に応じて政府・自治体の関連 URL や報告書などを報告し討論する
- 先行研究の整理、文献解題
- 分析の開始と分析手法の改善/フィールドワークの実際/エクセルや SPSS の手法、計量分析の具体的方法の習得と応用事例の学修を行い、演習 B（3年次）での共同研究へむけた準備を行う。

*** (担当：山本 裕美・経済学部) 多摩キャンパス開講**

テーマ：サステナビリティの経済学

演習概要：

サステナビリティの経済理論のテキストは、パーサ・ダスグプタ著(植田和弘監訳)『サステナビリティの経済学』《岩波書店》を使用する。

また持続可能性のある社会の原型は、一国の経済発展の過程からみるとその農村社会にある。そこで先進国や発展途上国の農業経済の研究から本や論文を選んで輪読する。昨年度は、原洋之介著『「農」をどう捉えるか』を輪読した。

*** (担当：大内 俊二・理工学部) 後楽園キャンパス開講**

テーマ：我々の生活する場所、街並みから地球まで、をどのように見ているのかを考えることから始め、我々が守るべき、あるいは創り出すべき、環境について考察を加える。

演習概要：

環境問題(特に、風景、風土、社会などに関連するもの)を扱った書籍、論文、記事などを読んで討論し、問題意識の共有化を図る。取り上げられたテーマに関する場所(たとえば、郊外住宅、ショッピングモール、都市内農地、放棄耕作地、都市河川、里山、ゴミ処理場など)を実際に見て歩き、皆で討論することによって問題を明確化させ、解決策を探る。

*** (担当：谷下 雅義・理工学部／中澤 秀雄・法学部) 多摩キャンパス開講**

テーマ：エコツーリズム(南三陸および能登)

演習概要：

(南三陸) 「南三陸・海のみえるやすらぎの森」の散策コース開発 および
入谷・山の神平地区における体験プログラムの作成
(能 登) 穴水・門前・志賀町における新しいツーリズムの検討

※人数に上限を設けたいと思っています。6人程度

※なお、中澤先生については、来年度は現地で学生が活動する際のサポートスタッフとしてゼミにかかわっていただくという位置づけです。

*** (担当：西田 治文・理工学部) 後楽園キャンパス開講**

テーマ：生物多様性

演習概要：

生物多様性に関わる基礎知識の習得、社会における動向の把握と、履修学生の興味に応じた調べ学習による発表と議論を行なう。また、NPO 生物多様性 JAPAN の活動を体験する。

*** (担当：ハリスン、ブライアン・総合政策学部) 多摩キャンパス開講**

テーマ：Environmental studies

演習概要：

Most classes will consist of discussions of various readings in English on various environmental topics. If there are sufficient students, group projects will be carried out. All students will research and prepare reports each year.

*** (担当：横山 彰・総合政策学部) 多摩キャンパス開講**

テーマ：環境政策論

演習概要：

この演習は、演習A・B・Cの連続履修を原則とします。この演習では、環境経済学や環境政策の基礎についてテキストを輪読形式で研究発表しながら学ぶとともに、共通事例研究についてグループ研究を実施し政策提言を行います。研究成果次第では、演習Bの先輩とともに、毎年12月に実施している5大学環境経済学交歓セミナー（京都大学植田ゼミ・一橋大学寺西/山下ゼミ・慶應義塾大学細田ゼミ・同志社大学岸ゼミ・中央大学横山ゼミ）やISFJ（Inter-University Seminar for the Future of Japan: 21世紀の日本を考える会）の場で発表討論して他大学との研究交流を行います。

F L P環境プログラム演習共通のサマースクールに加えて、本演習履修者は、9月上旬と2月上旬に実施する総合政策学部事例研究（ゼミ）との合同ゼミ合宿に参加して頂きます。